

ぶっつけ本番での初優勝

得意の9I、PWがピンに絡む

ネット65（ハンディ8、グロス73）

61歳 安達 順一（白木）



通常、大会前には会場となるゴルフ場の下見を2～3度するものだが、安達の場合はぶっつけ本番。全く初めての茜GCで栄冠を勝ち取った。1バーディー、2ボギーの73、ハンディ8を生かしてのネット65。安定したプレーが光った。「ここはブラインドホールも少なく、（フェアウエーが）広くて良かった。コースもきれいだし、メンテナンスも素晴らしい」とゴルフ場を褒めた。そして「OBさえなければハンディもあるし、まあまあ所にはいけるかな、と思っていた。（第2打の）アイアの距離が私の好きな距離とピッタリ合った」と勝因を挙げた。

この日はティーショットでドライバー、3W、7Wを使い、OBはゼロ。セカンドはショートを除く多くのホールで得意とするPWと9Iの距離が残った。9Iは120～130ヤードを打ち分ける技術を持ち、練習場ではこの2本に6～7割の時間を費やす。「ワンプン以内に寄せる自信がある。今日もよくバーディーチャンスについた」と言うほどでパット

が決まってきたら、グロスでアンダーパーの可能性もあった。

この大会は2度目の出場。昨年は8位に入り、全国大会でも9位タイに食い込み、安達には相性のいい試合である。ゴルフは仕事の付き合いで20歳前半に始め、本格的に取り組むようになったのは30歳の頃。今でも会社員として働き、ホームコースでの週一のゴルフ、研修会にも参加していて月一の他コースのラウンドを楽しむ。プロゴルファーを目指していた正朗（27歳）は息子。「ゴルフのない生活は考えられない。ゴルフは全てを忘れられる。今ね、ゴルフは『こうやな』というのが分かってきている感じがする。今から良くなるのでは」と自分自身に期待を寄せる。現在は安達のゴルフ人生において最高の時期かもしれない。

「旅行気分に来て」初優勝

自慢!?!は5度のホールインワン

ネット68（ハンディ13、グロス81）

68歳の大西 千代美（大分竹中）



初出場初優勝。「友達に誘われて、旅行気分で来たんです。まさか優勝するとは。90を切ればいいと思って。超出来過ぎです」と驚きながらも喜びは隠せない。大会前日に大分からやって来たのだが、その夜は2時間くらいしか寝らずに本番に臨んだという。

練習ラウンドではハーフで50以上をたたいただけに目標の90も領ける。ところが、この結果である。「パットに救われました。2mくらいのがよく入った」。インからのスタートで1、2番と連続ボギー後、3番では3mのパーパットを沈めた。この一打で悪い流れを断ち切り、前半のインを41。後半のアウトは40にまとめた。バーディーフリーながらパーは11個。「一緒の人たちと和気あいあいと楽しく、リラックスして回りました」。

「大好き」と言うゴルフは職場の友人に誘われて33歳から始める。今はホームコースや同好会のコンペなどに参加して週2～3回のラウンドをこなす。ご主人を9年前に60歳で亡くし、今は「老後人生に入っている」とゴルフに寄り添っての生活をエンジョイしている。

そんな大西の自慢!?は過去5回のホールインワンである。全てホームコースの大分竹中で達成した。最初は20年ほど前、9番(205ヤード、バックティー)をドライバーで放り込むと、約半年後には同じ9番(110ヤード、レディスティー)で。さらに、15番で2回、11番で1回。最近では4番でも惜しい一打があったそうだ。「今後の目標は4番でのホールインワンです」。ホームコースでの全ショートホールのエース達成となれば、ギネス入りかな？

《茜ゴルフクラブ》



